

一般社団法人日本内視鏡外科学会

2017年度（自2016年10月1日 至2017年9月30日）第3回理事会議事録

会員各位

日本内視鏡外科学会

☐開催日時 2017年12月6日（水） 16：00～19：00

☐開催場所 国立京都国際会館 2階（Room B-2）

☐理事総数 24名

☐監事総数 4名

☐出席理事数 22名

☐出席監事数 3名

☐出席理事の氏名

渡邊昌彦（理事長）、坂井義治、明樂重夫、池田徳彦、猪股雅史、岩崎昭憲、大須賀穰、小澤壯治、笠間和典、金山博臣、北川雄光、塩田 充、徳村弘実、中村雅史、橋爪 誠、羽瀧友則、藤澤正人、森 俊幸、森川利昭、山口茂樹、山高篤行、若林 剛

☐出席監事の氏名

黒川良望、松田公志、山下裕一

☐出席名誉理事長の氏名

北島政樹、北野正剛

☐議長の氏名

渡邊昌彦

☐決議事項に特別の利害関係を有する理事の氏名

該当する理事はいない

☐議事の経過の要領及びその結果

以下の通りである。

＊

定刻に至り、定款第41条に基づき渡邊昌彦理事長が議長席につき、開会を宣し、本日の理事会の開催及び議決に必要な定款上の定足数を確保し、本理事会が適法に成立した旨を告げ、議事が開始された。

1. 前回の理事会議事録が確認された。

2. 審議事項

1) 財務委員会（小澤壯治委員長）

- ・2017年度決算報告の詳細が説明され承認された。
- ・会員の増加、技術認定申請者数の増加により収入が増え続けていることへ指摘がなされたが、

ロボット支援手術の前向きレジスリー制度導入や技術認定制度のオンライン審査構築等、今後支出が増えていくことが説明され、委員会でのビデオ会議の運用や学会雑誌の完全オンライン化等、軽減できる支出の見直しを積極的に進めていくことも併せて報告された。

- ・監事より会計監査報告がなされ、今後は会計だけでなく会務に対する監査も理事会ごとに行っていくことが述べられた。

2) ロボット支援手術検討委員会（橋爪誠担当理事）

- ・前向きレジスリー登録制度のデータベース構築について、前回の理事会後の調整より、NCD のシステムを活用していくことが望ましいと判断した点が報告された。メリットとしては、NCD のシステムを活用することで、臨床研究のデータ比較分析がしやすくなる点、術中・術後登録と術前登録との二重登録が避けられる点、新規開発よりもより安価となる点等が説明され、承認された。また、本プロジェクトを JSES 主導のプロジェクトとして維持するため、JSES ホームページから NCD ホームページへ入る前に認証ページを設け、対象施設を管理していく点についても説明された。
- ・費用（NCD システム開発、JSES 認証ページ）、スケジュール（4 月上旬を目途とする）について確認された。
- ・NCD でのデータベース構築を進めるに当たり、現在 JSES は NCD の社員学会ではないため、現状の各領域での社員学会との調整を図る必要性について話し合われ、本データベース構築に関しての費用は社員学会ではなく JSES が負担する考えがあることが、理事長より説明された。
- ・NCD に対し、JSES が社員学会になることが望ましいという意見があり学会の総意として承認された。理事長より正式に NCD へ社員学会として入会の希望を申し出る点について説明された。
- ・プロクター制度確立について、前回理事会同様、ロボット支援手術検討委員会と教育委員会主導で進めていく点が説明された。今年度中に JSES 主体のプロクター講習会を開催し進めていく予定であることが報告された。

3. 報告事項

1) 編集委員会

(1) 日本内視鏡外科学会雑誌（渡邊昌彦編集主幹）

- ・投稿状況が報告され、採用率が平均で 34.1%の厳しい状況であることが報告された。
- ・同雑誌の完全オンライン化を図ると共に、学会雑誌そのものの在り方についても検討していくことが述べられた。

(2) Asian Journal of Endoscopic Surgery（北野正剛編集主幹）

- ・2017 年 4 月より ASES 活性化委員会が 9 名の委員構成として立ち上がり、Original Article の投稿や ASES の積極的引用を働きかけた結果として引用数が増えていることが報告された。IF 取得に向け、引き続き ASES を積極的に引用していただきたい旨お願いがなされた。

2) 総務委員会（藤澤正人委員長）

- ・庶務報告 会員数 13,890 名（2017 年 11 月 20 日時点）
- ・年会費 2 年未納による会員資格喪失対象が 413 名になることが報告され、対象者へ最終通告

- の上、納入が確認できない場合は退会手続をとることが説明された。
- ・物故者について報告された。

3) 教育委員会（山口茂樹委員長）

- ・第22回教育セミナーの開催について報告された。
- ・内視鏡下縫合・結紮手技講習会の開催実績が報告され、来年も同様の日程・場所での開催を調整していくことが説明された。
- ・公認研究会および後援講習会について、認定状況が報告された。また、各研究会・講習会申請時の審査基準の見直し、各公認研究会の活動状況を確認し、次回理事会で報告する旨説明がなされた。
- ・JSES 臨床見学・臨床指導プログラムについて、パイロットとして大腸領域で2018年より埼玉県において試験導入を開始し、4月以降全国展開できるよう調整していること、他領域についても各担当理事を中心に計画を進めていくことが報告された。

4) 学術委員会（猪股雅史委員長）

- ・第12回内視鏡外科手術に関するアンケート調査報告の英文化が完成し、2017年11月のAsian Journal of Endoscopic Surgery (Volume 10 Issue 4)に掲載されたことが報告され、IF取得に向け、積極的な引用のお願いがなされた。併せて、第13回アンケート調査報告は英文化を進めていること、第14回アンケートは現在依頼準備中であり2018年12月の第31回JSES総会にて調査結果を報告する予定であること、および学会雑誌へ掲載していくことが説明された。
- ・NCD研究の進捗状況について、2013年度申請「腹腔鏡下胃切除術の安全性に関する検討NCDによる前向き調査研究」においては、比企直樹先生の論文がGastric Cancer誌へ、衛藤剛先生の論文がSurgical Endoscopy誌に掲載され、同研究の終了が報告された。
また2014年度～2016年度研究は現在論文中であること、2017年度研究はNCDとの打ち合わせが開始されたことが報告された。
- ・「第21回 消化器外科データベース関連学会協議会」および「第5回 NCD 特定術式データ品質管理協議会」へJSES学術委員会委員長として出席したことが報告された。

5) 保険委員会（森俊幸委員長）

- ・平成30年度診療報酬改訂に向けての進捗状況とともに2月には外保連より結果の通知が出る点について報告された。ロボット支援手術の製品の値下げ交渉を各メーカーに対して行っている点についても報告された。他、外保連試案2018年の冊子が完成した点が周知された。

6) 規約委員会（徳村弘実委員長）

- ・理事、評議員の定年及び任期の延長に関する提案について、定款や各規則の変更案が示された。本学会が横断的学会であり、各専門領域学会との関係を構築していく上で現行の任期では不十分であること、また時流を鑑み65歳以降も多くの医師が臨床に携わっている点から、当学会の発展性を考慮し、学会および理事会の基盤を強固にする、という理由により本提案がなされたことが改めて確認され、翌日の社員総会でも規約委員長より説明することが述べられた。

7) 評議員選考委員会（塩田充委員長）

- ・評議員の社員総会出欠管理について、今回の社員総会よりデジタル管理を実施していくことが報告された。
- ・評議員の資格喪失後の再申請について、および医師以外（メディカルスタッフ等）の会員による評議員申請に関しても規定の整備を進め、年度内の決定に向け、次回理事会で提案することが述べられた。

8) ガイドライン委員会（中村雅史委員長代理）

- ・2019年のガイドライン発刊に向け、スケジュールの見直しを図ると共に、2018年12月の第31回JSES総会にて公聴会を開催する予定であることが報告された。

9) 国際委員会（中村雅史委員長）

- ・日中笹川医学協力プロジェクトの腹腔鏡実用技術研修の若手専門家派遣要請についてJCHO九州病院外科山田大輔先生が赴任されたことが報告された。
- ・ロシア内視鏡外科学会年次総会における日露シンポジウムの開催について、ロシア側からの要望によりトピックの検討および日本人講師の選任をJSESで進めていくことが報告された。
- ・渡邊昌彦理事長より、グラントの創設について検討していく旨が述べられた。

10) 広報委員会（明樂重夫委員長）

- ・NewsLetter 27号の発行が報告された。また、海外への講師派遣や国際委員会の日中、日露の交流活動の成果の広報について検討していく予定であることが説明された。
- ・HP トップページ写真更新、お知らせ、および一斉配信メールについて報告がなされた。

11) 第三者評価委員会（岩中督委員長：欠席）

報告なし

12) 倫理・渉外委員会（羽瀧友則委員長）

- ・鑑定依頼に対する受諾意思の確認は継続して回収中であることが報告された。
- ・倫理審査委員会については、ロボット支援手術前向きレジストリー制度のプロトコルが完成し次第開催予定であることが報告された。

13) 用語集改訂委員会（羽瀧友則委員長）

- ・JSESの用語集検索ページについて、現在アクセス数等を解析中である点が報告され、今後、単語についての解説を補充していく等、より活用しやすいページに改訂していく予定である点が説明された。

14) 技術認定制度委員会（坂井義治委員長）

- ・別紙のとおり、関連学会（泌尿器科領域、産科婦人科領域、整形外科領域）の技術認定新規取得者・更新者が報告され、承認された。
- ・技術審査委員の交代について報告され、承認された。

15) COI 委員会（山高篤行委員長）

- ・ 12 月に通信審議を実施し、日本医学会 COI ガイドライン改定に伴い本学会用の COI 改定案を作成した点が報告され、承認された。

16) 医工学連携委員会（森川利昭委員長）

- ・ 第 30 回日本内視鏡外科学会総会 第 3 回医工連携企画について報告された。
また、本企画実施への協力に対し、感謝の意が表された。
- ・ 本企画の収支報告を行うこと、また本企画に係る総会側との費用分担について今後検討していくよう、渡邊昌彦理事長より意見が出された。

17) メディカル・チーム検討委員会（岩崎昭憲委員長）

- ・ メディカルスタッフマニュアル改訂の進捗状況が報告され、2018 年秋の完成を予定していることが説明された。
- ・ メディカル・チームの裾野を広げるため、日本手術看護学会にワーキンググループ設立を提案していることが述べられた。

18) E ラーニング検討委員会（池田徳彦委員長）

- ・ E ラーニング用のコンテンツについて教育委員会、技術認定制度委員会、学術委員会および専門医制度検討委員会と検討の上、第 30 回 JSES 総会中に開催される教育セミナーの講演録画を実施することが報告された。録画の掲載方法等について、また技術認定申請時の E ラーニング受講における規定等も今後検討予定である点が説明された。

19) 将来構想委員会（渡邊昌彦委員長）

- ・ 評議員の選考方法、技術認定制度の在り方、学会主導の研究の在り方等について今後各委員会と連携し検討していく予定である旨説明がなされた。

20) 大上賞選考委員会（渡邊昌彦委員長）

- ・ 受賞者が金谷誠一郎氏（大阪赤十字病院第二消化器外科）となった旨報告された。

21) 出月賞選考委員会（大須賀穰委員長）

- ・ 受賞者が西村淳氏（新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院外科）となった旨報告された。
- ・ 同賞について、第 17 回（2014 年）より伊藤賞から出月賞に名称変更した旨を、資料にも追記することが確認された。

22) 専門医制度検討委員会（北川雄光委員長）

- ・ 専門医制度について現状の課題として、総合診療科の認知が低い点、地方においては医師の不足についての意見があがった点が報告された。
- ・ 専門医制度の今後について、現状大きな改定案は出されていない点、現在各領域でサブスペシャリティ領域の認定を行っている最中である点が報告された。また、今後日本消化器外科学会から日本外科学会へ専門医制度の必要条件等の変更について要望が提出され、その際に

は本理事会にて報告する予定である点が説明された。

23) 第 30 回総会状況報告 (坂井義治会長)

- ・本総会の企画・運営への協力に対し、感謝の意が表された。
- ・第 30 回総会の状況が報告された。
- ・カールストルツ賞の受賞者が中平伸氏 (堺市立総合医療センター肝胆膵外科)、宮野剛氏 (順天堂大学小児外科・小児泌尿生殖器外科) となった旨報告された。

24) 第 31 回総会準備報告 (岩崎昭憲次期会長)

- ・総会への協力について感謝の意が述べられ、テーマを「The Next Step Forward 夢を描き未来を開く」としたことが報告された。

25) 第 32 回総会準備報告 (小澤壯治次々期会長)

- ・会期は 2019 年 12 月 5 日 (木) ~ 12 月 7 日 (土) であり、開催地がパシフィコ横浜であり、鋭意準備中であることが報告された。

26) 第 33 回総会 / 17 th World Congress of Endoscopic Surgery 準備報告

(猪股雅史次々期会長)

- ・会期は 2020 年 9 月 9 日 (水) ~ 9 月 12 日 (土)、会場はパシフィコ横浜に決定したことが報告された。併せて、同時期開催となる Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia 2020 の会長に森俊幸理事が就任したことが報告された。

27) 日本医学会・その他 (渡邊昌彦理事長)

- ・日本医学会分科会用語委員会の開催予定が報告された。
- ・腹腔鏡下肥満・糖尿病外科手術の導入要件について報告された。補足として、笠間和典理事より、腹腔鏡下肥満・糖尿病外科手術が今後急速に普及することが予見されることから、安全性の担保を目的とし JSES と日本肥満症治療学会より共同で本手術の導入要件を発表し注意喚起を促すことが提案された。導入要件の内容について一部追記をし、理事会後に通信審議を経たのち声明文として公表する点が承認された。
- ・猪股雅史理事より、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) において未来医療を実現する医療機器システム研究開発事業として本学会と共同で研究を進めている点が報告された。本プロジェクトの目的として、技術認定審査用提出ビデオを教育目的で二次利用し、人工知能を用いてより効率的で安全性の向上を目的とした手術手技や手術機器開発を行う点が説明され、データ提供について学会ホームページから学会公認プロジェクトとして各施設へデータ提供協力を要請する予定である旨説明がなされた。
- ・松田公志監事より、本学会として技術認定取得者の審査について制度委員会・審査委員会で認定制度の在り方、合格レベル設定について、改めて考えていく必要がある点が示唆された。それを受け、JSES の技術認定を取得することで一人前の術者として認められていくような認識を広めていくことが必要である点、学会としても広報的により広く認知される方法を検討していく必要がある点について話し合われた。

以上

2017 年度技術認定申請者一覧（泌尿器科領域）【新規】

梅本 晋（神奈川県立がんセンター）	古川 順也（神戸大学病院）
篠田 和伸（慶應義塾大学病院）	馬嶋 剛（名古屋大学医学部附属病院）
武田 隼人（がん研有明病院）	

2017 年度技術認定申請者一覧（泌尿器科領域）【更新】

荒木 千裕（帝京大学）	納谷 佳男（長浜市立湖北病院）
大枝 忠史（尾道市立市民病院）	原林 透（北海道がんセンター）
神谷 直人（東邦大学医療センター佐倉病院）	福本 哲也（愛媛大学）
児玉 浩一（富山市立富山市民病院）	別宮 謙介（国立病院機構岩国医療センター）
下田 次郎（岩手県立胆沢病院）	町田 二郎（済生会熊本病院）
清川 岳彦（京都市立病院）	柚木 貴和（福岡赤十字病院）
亭島 淳（広島大学）	渡邊紳一郎（済生会熊本病院）
内藤 泰行（京都府立医科大学）	

2017 年度技術認定申請者一覧（産科婦人科領域）【新規】

石谷 健（北里大学北里研究所病院）	田中 良道（大阪医科大学附属病院）
大井 由佳（横浜労災病院）	田沼 史恵（函館中央病院）
角田 守（堺市立総合医療センター）	西野 幸治（新潟大学）
葛西亜希子（八戸市立市民病院）	浜口 大輔（長崎大学病院）
可世木華子（日本医科大学付属病院）	平田 哲也（東京大学医学部附属病院）
片桐由起子（東邦大学医療センター大森病院）	南 妃奈（札幌東豊病院）
河合 要介（豊橋市民病院）	三村 貴志（埼玉県立がんセンター）
下向 麻由（独立行政法人国立病院機構横浜医療センター）	八並 直子（佐賀県医療センター好生館）
鈴木由梨奈（船橋市立医療センター）	吉岡 信也（神戸市立医療センター中央市民病院）
瀬尾 晃平（昭和大学横浜市北部病院）	吉田 宏之（医療法人財団荻窪病院）

2017 年度技術認定申請者一覧（産科婦人科領域）【更新】

伊藤 雅之（大阪府済生会吹田病院）	高橋 知昭（旭川医科大学病院）
井上 卓也（医療法人財団足立病院）	田村 充利（松本市立病院）
金尾 祐之（がん研有明病院）	土屋 裕子（帝京大学医学部附属溝口病院）
康 文豪（大阪市立住吉市民病院）	徳山 治（大阪市立総合医療センター）
小西 康博（済生会横浜市東部病院）	中山 健（昭和大学藤が丘病院）
齋藤 裕司（独立行政法人国立病院機構北海道医療センター）	和田真一郎（手稲溪仁会病院）

一般社団法人日本内視鏡外科学会

2017 年度（自 2016 年 10 月 1 日 至 2017 年 9 月 30 日）第 1 回社員総会議事録

会員各位

日本内視鏡外科学会

- ☐開催日時 2017 年 12 月 7 日（木）18：00～19：00
- ☐開催場所 国立京都国際会館 1 階 メインホール（第 1 会場）
- ☐社員総数 858 名
- ☐出席社員数（委任状による出席も含む）711 名
- ☐理事総数 24 名
- ☐監事総数 4 名
- ☐出席理事数 22 名
- ☐出席監事数 4 名
- ☐出席理事の氏名

渡邊昌彦，坂井義治，明樂重夫，池田徳彦，猪股雅史，岩崎昭憲，大須賀穰，小澤壯治，
笠間和典，金山博臣，塩田 充，徳村弘実，中村博亮，中村雅史，橋爪 誠，
羽瀧友則，藤澤正人，森 俊幸，森川利昭，山口茂樹，山高篤行，若林 剛

- ☐出席監事の氏名
黒川良望，松田公志，万代恭嗣，山下裕一
- ☐出席名誉理事長の氏名
北島政樹，北野正剛
- ☐議長の氏名
坂井義治
- ☐議事の経過の要領及びその結果
以下の通りである。

＊

定刻に至り，渡邊昌彦理事長が日本内視鏡外科学会 社員総会の開催を宣した。定款 21 条に基づき本総会の開催及び決議に必要な定款上の定足数を確保していることが確認され，本総会が適法に成立した旨を告げた。議事に先立ち 2017 年度の物故者の先生方に対し黙祷がなされた。

続いて，定款第 17 条「社員総会の議長は会長がこれにあたるものとする」に則り，以降の進行は第 30 回日本内視鏡外科学会総会 坂井義治会長がこれを務めた。

議事の経過の要領及びその結果については，前日に行われた理事会における報告事項における内容が変更・修正なく承認されたので，理事会議事録において各々対応する事項の記載をもつ

て、省略する。

【決議事項】

1) 2017 年度決算について

小澤壯治財務委員長より 2017 年度決算について説明がなされた。万代監事より監査の結果、この度の決算について適正かつ妥当であることが述べられた。以上を踏まえて、審議された結果 2017 年度の決算が承認された。

2) 第 33 回（2020 年）会長就任について

大分大学猪股雅史先生が就任することが承認された。

3) 定款の改訂について

理事及び評議員の定年を 65 歳から 67 歳へ伸長すること、理事の再任回数を 3 期から 4 期へ伸長すること、変更の効力は 2017 年 9 月 30 日時点における理事及び評議員に対しても適用されるものとする、定年の引き上げに伴い、名誉会員及び特別会員の対象年齢を 65 歳に達した者から 67 歳に達した者と変更することが承認された。

4) 評議員選出規則変更について

評議員となる者の資格として、満 65 歳未満の正会員から満 67 歳未満の正会員へと変更すること及び評議員の申請資格に総会への参加について直近 7 年のうち 4 回以上の参加実績を有し、総会参加証明書を提出することを追加することが承認された。

5) 2018 年度新体制について

以下の者を理事及び監事として選任することが承認された。

＜再任：理事＞

明樂重夫、池田徳彦、猪股雅史、岩崎昭憲、岩中督、北川雄光、塩田充

＜新任：理事＞

宇山一郎、内藤剛、中村廣繁

＜再任：監事＞

山下裕一

なお、以下の三名は退任した。

徳村弘実、森川利昭、渡邊聡明

議事の最後に、以下の特別会員の推戴状授与式が行われた。

＜特別会員＞

大杉 治司

中川 国利
吉田 正

続いて、大上賞・出月賞の授賞式が行われた。

<大上賞>

金谷誠一郎（大阪赤十字病院第二消化器外科）

<出月賞>

西村 淳（新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院外科）

以上、社員総会の議事の経過並びに結果が正確であることを証するために、議事録を作成し議長がこれに記名押印する。

（以下略）

以上